国語科　（現代文Ｂ）　学　習　指　導　案

単　元	評論４　原始社会像の真実	教科書	精選　現代文Ｂ（東京書籍）
指導目標	1　文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深め、発展させようとする。 2　目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現することができる。	指導計画	1　他者の声　実在の声・・・・・・２時間 2　原始社会像の真実・・・・・・・３時間 （本時はその２時間目）

本時の指導過程

主　題	現代社会をありのままに見つめ、捉え直すことを通して自らの世界の見方を考える。
本時の目標	現代社会について、データをもとに考察し、自分の考えを深めたり発展させたりすることを通して、多様な個性を持ったものとして世界を見つめる姿勢を育む。
課　題	原始社会で生きるために必要なものについて考えておく。

	学　習　活　動	時間	留意事項など(ALの視点を含む)	評価基準・方法、資料等
導入	1　本時の目標を確認する。	5	・原始社会を見つめることを通して、現代社会のあり方を考えていくことを確認させる。	・オンラインホワイトボードツール「Miro」
展開	1　原始社会で生きることについて想像する。	15	・生き抜いていくために、どのような価値判断や行動が生まれるかを考えさせる。 ・先入観にとらわれず、ありのままに捉えることの難しさを実感させる。 ・原始社会と現代社会がつながりを持ったものであることを意識させる。	【評価基準】 A　課題を発見し、具体的なイメージを持って判断し、優先順位を付けることができる。 B　課題を発見し、具体的なイメージを持つことができる。 C　課題を発見することができていない。 【評価方法】 ○記述の確認・机間観察
	2　データをもとに現代社会を捉え直し、自分自身の目線について考える。 **データから見える「現代社会」と、私たちが見ている「現代社会」には、どのような違いがあるか。**	25	・現代社会が抱える様々な個性を、ありのままに見つめることを意識させる。 ・データから見える「現代社会」像と、私たちの実感から生まれる「現代社会」像の違いを捉えることによって、世界を見つめる自分自身の目線について考えさせる。	【評価基準】 A　「現代社会」について、収集した資料や他者の考えをもとに、総合的に判断して多様な解釈を考えることができる。 B　「現代社会」について、収集した資料を用いて多様な解釈を考えることができる。 C　「現代社会」について、収集した資料を用いて定義することができない。 【評価方法】 ○記述や発表の確認
整理	1　本時の振り返りを行う。	5	・多様性を持った社会が相互に関係し合って、次の社会がかたちづくられていくことについて考えさせる。	

備　考	商業科・情報ビジネス科　　生徒数　３８名